

へんじ 返事を するように なった ダニー

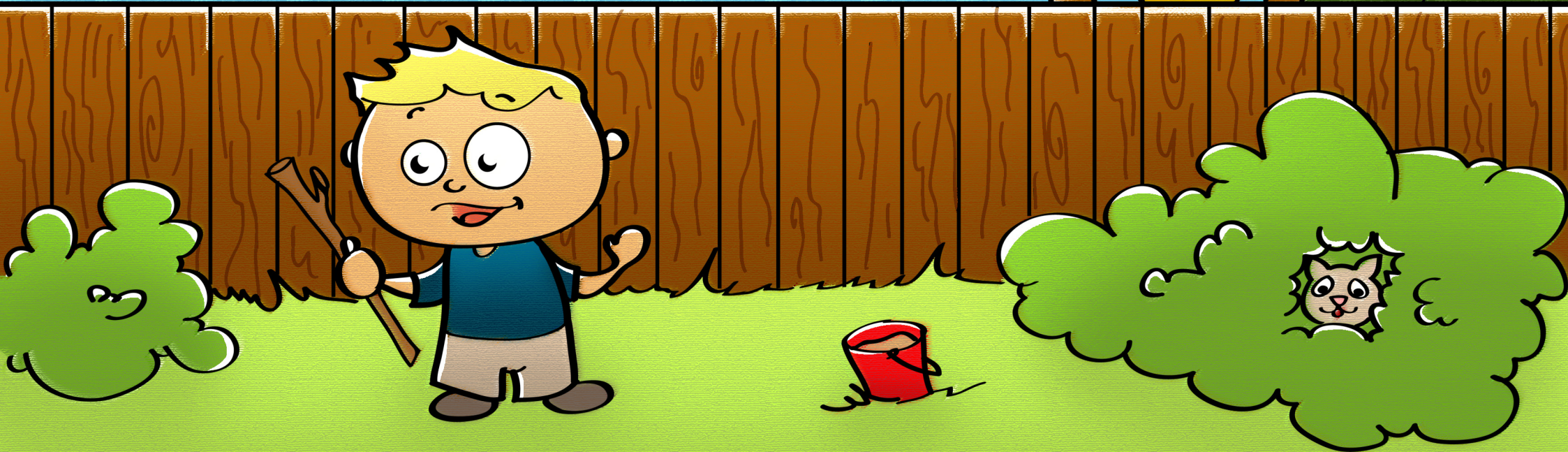
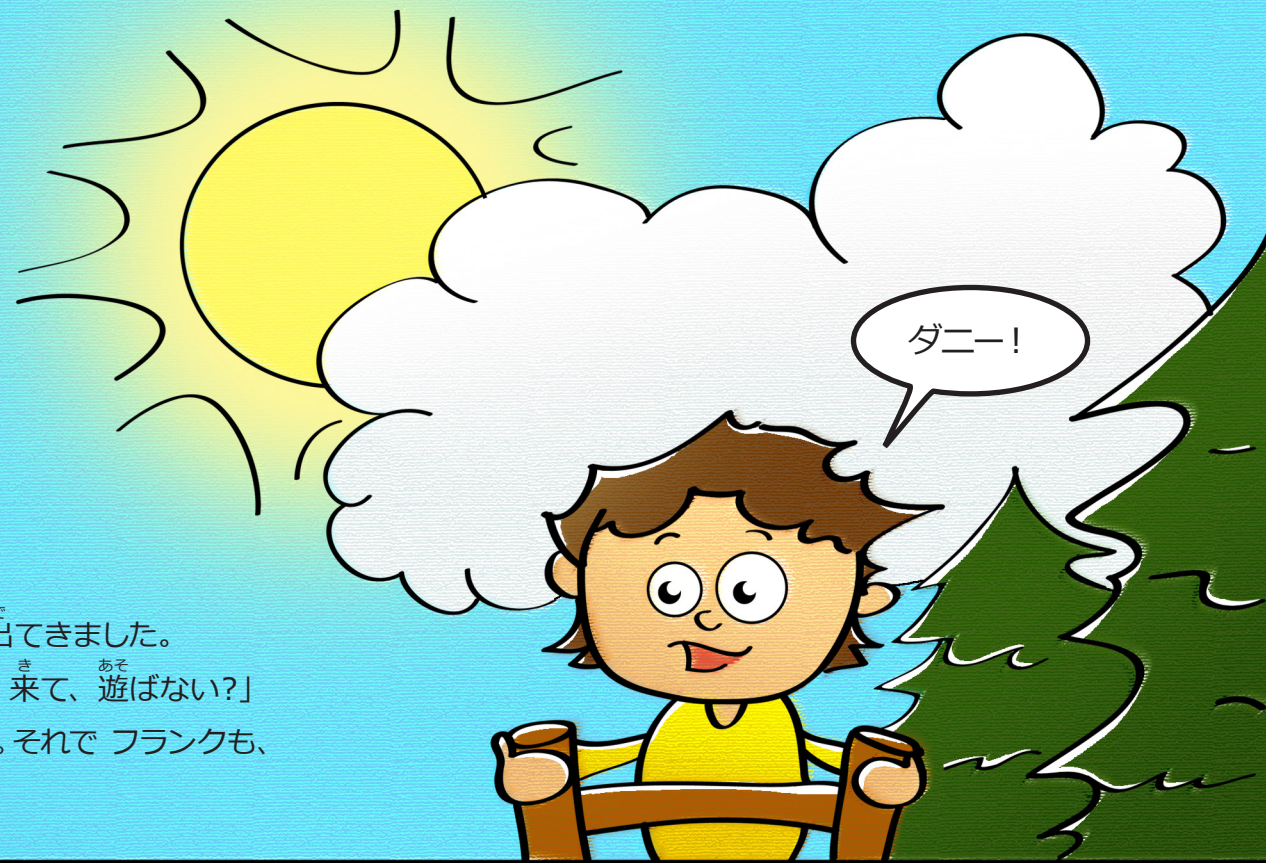
「ダニー。雑貨屋に 行くんだが、いっしょに 来るかい?」と、
お父さんが たずねました。

ダニーは 返事を しませんでした。そのまま ろうかを ある っづ
外に 遊びに 行ってしまったのです。

ダニーが 前庭で 遊んでいると、おとなりの 友だち フランクが 出てきました。

フランクは ダニーを みると、声を かけました。「ねえ、こっちに 来て、遊ばない?」

ダニーは そっぽを 向いて、自分の 遊びに 夢中になっ ちゃいました。それで フランクも、
家の中に入ってしまった。



ダニーは しばらく 一人で 遊んでいましたが、だんだん つまらなく なりました。それで、家の 中に入ることになりました。
家の 中に入ると、おばあちゃんが 声を かけました。「ダニー、いすを 動かすのを ちょっと 手伝ってくれないかね。

ああ、クッキーも 焼いたよ。食べるかい？」

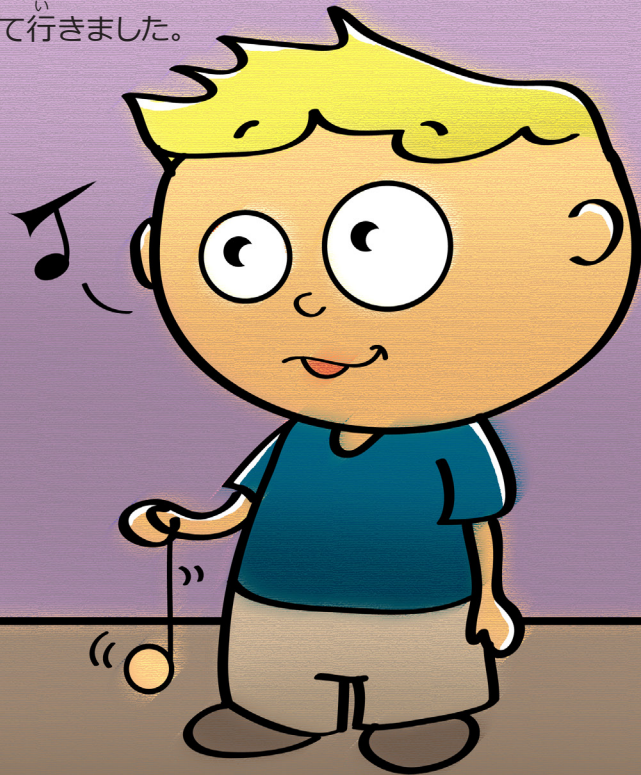
ダニーは、おばあちゃんの方に ふり向くことさえ してませんでした。返事も せずに、
さっさと す通りしてしまったのです。おばあちゃんは、頭を かしげました。

クッキーと 聞いて、ダニーは ちょっと おなかが すいてきました。(おやつは
後で いいや。最初に レゴで 宇宙船を 作りたいもの。)と ダニーは 思いました。

ダニーが ろうかを 曲がると、お父さんが いました。

「ねえ、お父さん。レゴで 宇宙船を 作るの、手伝ってくれない？ けっこう
むずかしいんだ。」と、ダニーが たずねました。

けれども、ダニーのお父さんは 立ち止まらずに、そのまま ダニーを す通りして、書さいに
入ってしまいました。ダニーは ちょっと 首を かしげていましたが、お父さんの 後について、
かけて行きました。



「お父さん！ お父さんってば！ レゴを組み立てるの手伝ってって
言ったのに、どうして 返事してくれないの？」と、ダニーが 言いました。

「ダニー。おまえに 聞くが、父さんが 返事を しなかった 時、
どんな 気持ちに なったかい？」

「う〜ん・・・ 悲しくなったかな。ぼくと いっしょに いたく
ないのかなって。」

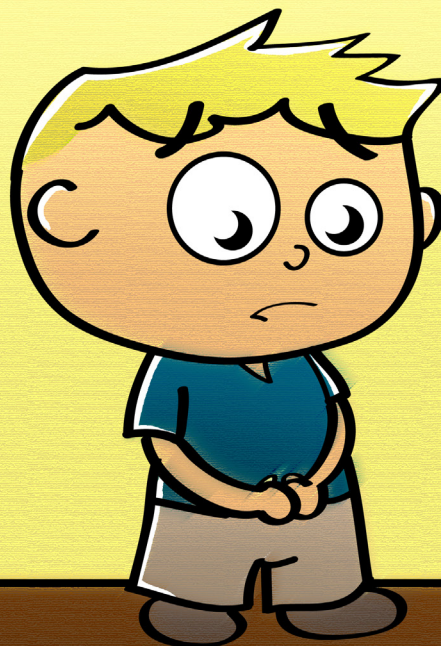
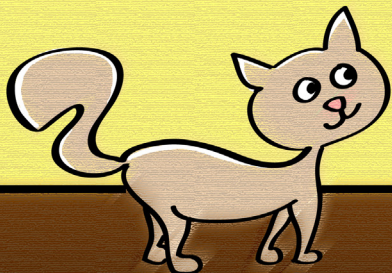
「ダニー。それは、みんなも 同じだよ。おまえに 何かを 聞いても、
ふり向きも せず、返事も しない 時にはな。

今朝の ことを 考えてごらん。たった今、父さんが 返事しなかった
時に おまえが 感じたのと 同じように 感じた 人たちが いるんじゃ
ないかな。おまえが 無視した 人たちの 所へ 行って、みんなの
言おうと していた ことを ちゃんと 聞き直してみるべきじゃ
ないかな。」

ダニーは 今朝の ことを 考えてみました。そして、
お父さんの 言う通り、自分が 無視して 悲しい 思いに
させただろう 人たちが 確かに いるなと 思いました。

「お父さんの 言う通りだよ。ぼく、
あやまらなくちゃね。」と ダニーが 答えました。

父さんが 返事を
しなかった 時、どんな
気持ちに なったかい？





ダニーは、おとなりの^{とも}友だち フランクに ^あ会いに ^い行きました。「今朝は ^け無視して ^むし
ごめんね、フランク。ぼく、^{しつれい}失礼で ^い意地悪^{じわる}だったよね。ゆるしてくれる？」

「もちろんさ。」と、フランクが ^{こた}答えました。

「ありがとう！ ぼく、おばあちゃんのお手伝^{てつだ}いを しなくちゃ いけないんだけど、
その後、^{あと}レゴで いっしょに ^{うちゅうせん}宇宙船^{つく}を作りたいかなあ？」 ダニーが たずねました。

「うん！ それに、ぼくも お手伝^{てつだ}い できるよ。」と、フランクが ^い言いました。



なか よ ふたり
仲良しの二人は、ダニーの おばあちゃんを さがしに おとなりへ 行きました。

「おばあちゃん。ぼくたち、おばあちゃんの いすを 動かすの、手伝えるよ。」と、
ダニーが 言いました。

「まあ、ありがとう！」 おばあちゃんが 声を 上げました。

お手伝いが 終わると、おばあちゃんは 二人に 手作りの クッキーを
出してくれました。仲良し 二人は、すわって おいしそうに おやつを
食べました。そして、レゴで 宇宙船を 組み立てました。ダニーの
お父さんも、手伝ってくれました。

きょうくん まわ ひと しんせつ そんな いしめ なに
教訓：周りの 人たちに 親切に なり、尊敬を 示そう。何か
たずねられたら きちんと 返事し、話す 時には その 人の
ほう み はな
方を見て 話そう。

